

# 居合道 だより

第134号





残暑お見舞い申し上げます。

子供の頃からツクツク法師が鳴き始めるこの時期は、何とも切ない気持ちになったものだ。

夏休みはもう数日で終わるのに、宿題も自由課題もまだほとんど手をつけていない。昨年もそうだった、その前の年も、、、と。

コツコツと毎日少しずつやればよいものを、なんと学習の出来ない情けない性格なことかと、子供心に自己嫌悪に陥ったものである。大人になってもあまり成長したとは思えない時期が長いこと続いたが。

そして遅まきながら「不惑」の歳を迎えた頃からかなり変わった。居合のおか

げである。しかしこの時期は全国大会まであと数十日、一番不安定な精神状態の時だった。その不安を払拭するために、がむしゃらに稽古した。今はもうとっくに引退し、遠い昔のことなのに、悲しいかな人間の性、この時期ツクツク法師の鳴き声を聞くと、今でも血が騒ぎ精神不安定になる。

今年の我が県の選手諸君！辛いのは君だけじゃない、もう少しの辛抱だ、頑張れ！

話変わって、今年も高校野球を楽しませてもらった。

全国3,839校が甲子園を目指し、参加できたのはわずか49校のみ。テレビに映る試合以前にも様々な悲喜こもごものドラマがあったことだろう。

球児には将来プロを目指して注目されている選手、ただ純粋に野球が好きで頑張っている選手、まさに千差万別だろうが、ひとつだけ共通していることがある。

彼らは「辛い、苦しい時間を自ら持ち、それに耐えて必死に頑張っている」ということだ。

やればできる、努力は報われる、を実感した選手もいる反面、結果が出なかった、運が無かった、才能の差を実感した、同じように努力したからといって、決して同じようには報われないことも知らされる。

人間社会の不公平、理不尽さをも体験するのである。

しかし、くじけるな、球児たちよ！君たちは幸いである。

そのことこそが君たちにとっては最高の、何ものにも代えがたい人生の財産になるのであるからして。

かんなんなんじ たま  
『艱難汝を玉にす』

## 主な活動

8月6日 居合道講習会 アクション福岡

## 9・10月の活動予定

9月2～3日	第45回居合道中央講習会	全剣連 京都武道センター
10日	福岡県居合道段位審査会	福剣連 福岡武道館
24日	福岡県居合道伝達講習会	福剣連 福岡武道館
10月21日(土)	第52回全日本居合道大会	全剣連 広島県 <a href="#">広島サンプラザ</a>

## 合格者の声

### 七段審査に向けての取組

行橋武道館居合道部  
佐藤 清

私が居合と出会ったのは平成6年の1月で、同年9月には初段に挑戦させて頂いた以来、剣道連盟制定居合を23年振り続け、今回やっと七段に合格させて頂きました。

師匠は、若くして始めるなら寄道・脇道・回り道も結構だか、「君らは、始めたのが遅く、寄道や回り道をしている余裕は無い。教えた事を素直に受け入れ、正確に覚えること」

技の習得は、「出来るまでやる。出来たらその技を筋肉に書き込め」と言われながら4段手前まで、厳しくも丁寧に正確な技を教えて頂いた事が私の財産と成っています。

六段取得に向け意識したのは、平成17年の北九州大会で8本目の演武に対し「刀を抜き終えたら鯉口を隠す、これは常識だよ。六段審査まで2年有るなら、

技の細部に気を配った演武を心がけなさい」と大阪の先生より御指導を頂いた事が、技の細部にわたる所作を見直す機会を得た事が大きかったと思います。しかし、本番に向け正面の礼から刀礼に至る所作を軽んじていた事が、下緒の処理の失敗に繋がり、七段への良き教訓と成りました。

師匠は、「抜き付け・切り付け・切り下し等の技は出たところ勝負、服装・目付・残心から正面の礼は確実に行えば100点を取れるので日頃の練習を疎かにするな。」と言われた事をこの失敗で、改めて脳裏に刻むことが出来ました。

七段に向けての稽古は、一昨年北九州大会で、「貴方の技前は良いが、力が入り過ぎています。力が抜ければ7段に行けます」と鹿児島先生から、耳打ちされた事が、力を抜く事を真剣に考える契機と成り、模索する苦難の始まりでも有りました。

試行錯誤の末に、師匠の発言をメモしたノートに、「柄の握りは、柄上部にストローを添えて握り。ストローを潰さない様に柔らかく握る事」と書かれており、「(注) 柄を手の指先で柔らかく握り、切先が動きやすい様に手を柄に添える？」と添え書きが有りました。

この握りで刀を振ると、刀が切先から飛び出しそうに成り、刀を手の平で包み込む感覚が無く、不安が先立つ握りでした。しかし、慣れてくると切先は力強く走り、長い稽古でも肩のたるさを感じなくなり、しばらく続ける事に決め、評価して頂く機会を待つ事にしました。

その機会は、半年で訪れた地区講習会でした。

八段の先生が指定した技を受講者が少人数で抜き評価頂けるもので、どの様な評価が頂けるか、力の入れ過ぎに関する指摘を待っていましたが、一度も指摘されずに過ごす事が出来た事で、よし！この方法で続ける自信が付き、今年3月の北九州大会では5年ぶりの入賞する事が出来大きな自信と成りました。

演武における技への取組は、制定居合では大きな修正はしませんでした。

古流2本も制定の技も、22年間振り続けて来た物で自分の癖も合ってしまった技は、簡単に修正出来ない為、全ての技を抜く際に、軸を大切にすることを第一に考え、常に垂直姿勢をキープする点と、軸足を意識した攻めの有る演武に心がける事とし、肩の力・姿勢・軸足の三点重視で取り組みました。しかし、審査での出来栄えに対する実感は無く、試験を終えた感想は「スムーズに抜けた」と感じる感覚が脳裏に残って居ただけで、自分の受験番号(41-A)を忘れておりました。

どの様な演武に成ったのか、今と成っては審査の先生方と神のみが知るところです。七段に合格した今、六段の時と何も変わらず実感は有りませんが、今後七段としての見られる事に対し、より一層稽古に励み古流の稽古量も増やして行きたいと思っております。

今まで長きに渡り、ご指導並びに応援を頂きました諸先生方にこの場を借り心より御礼申し上げる次第です。

ありがとうございました。

今回は、重信流滴水塾にお邪魔しました。  
 重信流は江戸時代後期の文政年間に故あって突如として秘され、相伝以外は親子兄弟たりとも他見他言が許されず世に秘されて密かに伝承された。  
 木村栄壽師は極秘裏に当流の技を伝授され、さらに師の遺命により当流の公開に踏み切った。  
 当時居合道範士八段であった額田長・橋下正武両師及び、木村茂喜師に継承されて、今では各地に広がりを見せている。

重信流には「<sup>たとい</sup>仮令大罪悪人に直面するとも刀を抜くな抜かすな、斬るな斬られるな、殺すな殺されな、話して懇切に懇切に説法し、善人に導くべし。万一従わずば、詮方なく袈裟打ちかけて成仏せしめよ」という「袈裟の一太刀」のご神託が伝え残されている。

一門ではこのご神託を居合の大精神として、厳正なる刀法の練磨や体足の運用に努めている。

重信流滴水塾は額田先生のお膝元関西を中心に広まっていたが、代表者 境彪が退職後、郷里福岡に戻り平成13年から活動を始め重信流滴水塾を開いた。そして師が生涯かけて修行された「夢想神傳重信流」を後世に誤りなく伝え残したいと願い努めている。



道場名：重信流滴水塾  
 流派：夢想神伝重信流  
 代表者：堺 彪先生  
 稽古場所：福岡市市民体育館  
 (福岡市博多区東公園 8-2)  
 稽古日時：土曜日 18:00 ~ 20:00  
 (地図クリックで大きな地図へ)  
 現在会員数：8名 (うち女性1名)

- 平成12年 重信流滴水塾を開く
- 平成16年 川路先生が退職、帰省され共に稽古を始めることとなった
- 平成24年 イギリスで居合をしていたジェームズさんが来日、重信流を習いたいと入塾



向かって左が川路先生、右が境先生



稽古風景

## 編集後記

今回重信流滴水塾にお邪魔しました。もちろん道場を訪問する事と、たまたま初心者講習会の体験希望者が3名ほどおられたからです。

今年は初心者講習会の参加希望者に向けて広報でかなり活発に活動しています。といいますのは、どうもメールや電話ファックスだけでは伝わらない、超えられない壁を感じていたのです、時間の許す限り走り回っています。なんとか、ただ見るだけの見学だけではなく、刀を触ってみて、振ってみて、重さを感じ、イメージを作り、もっとやってみたくて想像を膨らませていただくまでが広報！と、もちろんみなさん興味があって、きっと一瞬居合道に想いを馳せてメールをいただいたのだろうと考えたからです。

きっと、広報部で空回りしているのだろうと感じながら、それでも、希望者の最初の一步を踏み出そうとしている「とても高いと感じている敷居（勇気）」を、共に超えるお節介をするところから既に稽古が始まっているのだと考えながら、各道場にはご迷惑な話であろうと存じますが、押しかけ、説明し、体験していただき、あっさりと共に居合道の敷居を共に超えるという無駄ではないか？とも思える作業をしています。

今回、参加するしないは別として、少しでも刀に触れて体感してみて、たとえ今回は残念ながら無理だったとしてもいつかきっと思い出し、次は自分でその敷居を超えていただけたらいいなと願いながら走り回っております。

また、広報担当としても、初めて何う道場の雰囲気なども体感しながら、色々な道場や流派、先生がおられるその少しの香り程度でもお伝えできたらと考えております。

ご批判もあるとは存じますが、居合道部発展のため、皆様何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

福岡県剣道連盟 居合道部 広報一同



© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第134号 平成29年9月1日発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL : <http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847